



第62回 法学部カフェ

ドイツとパレスチナ問題

ガザ攻撃をめぐる反セム主義のくびき

2025年7月26日（土）14:30～
北海学園大学豊平キャンパス
2号館2階 22番教室

参加自由
途中入退室可
事前申込不要



話し手 錦田 愛子

慶應義塾大学法学部教授。中東地域研究、移民／難民研究。主著『政治主体としての移民／難民 人の移動が織り成す社会とシティズンシップ』（明石書店、2020年、編著）。



聞き手 本田 宏

北海学園大学法学部教授。政治過程論、社会運動論。主著『参加と交渉の政治学 ドイツが脱原発を決めるまで』（法政大学出版局、2017年）。



司会 岩坂 将充

北海学園大学法学部教授。比較政治学、現代トルコ政治研究。主著『エルドアン時代のトルコ内政と外交の政治力学』（岩波書店、2023年、共著）。

2023年10月にパレスチナ・ガザ地区で勃発したイスラエルとハマスとの戦闘は、多くの死傷者を出しながら長期化しており、周辺地域だけでなく世界各国の社会にもインパクトを与えている。欧米各地の大学でのガザ攻撃反対デモやアメリカ大統領選挙に与えた影響は、その代表的な例である。

本カフェでは、ナチス時代への反省からイスラエル擁護を堅持してきたといわれるドイツに注目する。ユダヤ批判が強いタブーとされる社会では、どんなまなざしがこの紛争に向けられてきたのか。パレスチナ問題とドイツをはじめとする国際社会のかかわり方を考察する。